

2020年度 男子バスケットボール部 メンバーインタビュー

部員数	41～60人	主な成績	
所属学群	体育専門学群, 人文・文化学群, 社会・国際学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 情報学群, 医学群	全日本大学選手権 優勝 (2014～2016, 2019) 関東大学バスケットボール選手権 優勝 (2016～2018) リーグ戦 優勝 (2016)	
練習場所	中央体育館バスケットボール場		

永田 真吾(体育4年/Bチームキャプテン)

門富 賢介(体育2年)

— 私が目指す「バスケ」

永田

チームとしては、毎年「日本一」インカレ優勝を目指しています。個人的にもそれを一番大切にしています。

門富

バスケのスタイルとしては、ディフェンスからの速攻が筑波の持ち味なので、そのディフェンスを個人的には高めていきたいと思っています。



— 筑波大学をどう思っていた？

永田

最初、入学するときは、保健体育科の教員になりたいと思っていました。その中で、バスケの顧問として指導する将来を考えたときに、一番レベルの高いバスケ、さらに、一般入学でも得られることが一番多いのは筑波だと思い、筑波大学を選びました。

入学前に気付けなかったこととして、授業の幅が広く、体育専門学群という名前から、高校までの「体育」の延長、たくさんスポーツをやると思っていたら、スポーツ科学の分野や、それを派生させたような経営や社会学的な勉強、また他学群の授業も積極的に受けられる。その幅がすごいと感じています。

門富

漠然と体育系の仕事につきたいと思っていて、筑波大学の体育専門学群が、学業も競技でもレベルが高いと感じて、筑波を選びました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなおとこ

永田

部員間のコミュニケーションが多く、それが学年を超えてできるのがすごくいいです。自分自身、下級生の時に、上級生から多くの意見を求められていましたし、それがあっていい雰囲気ができるように、チーム作りをしてきました。これからもそれがいいなと思っています。

門富

高校以上に、礼儀について学びました。言葉遣いや挨拶など、大学生になって、しっかりと使えるようになったなと思います。また、団結力。去年インカレで優勝したとき、特にチーム一丸となっているのを感じました。いい意味で上下関係がなく、下級生からも意見を言えて、それが上級生も受け入れてくれる所が好きなおとこです。



— これからの目標(直近の目標、人生の目標)

永田

チームでは、日本一を目指す。自分自身はBチームの4年生として、そろそろ選手としては引退ですが、それでも12月のインカレに向けて、バスケ以外の活動に力を入れられる環境があるので、そういう面からチームを支えて、チーム一丸となってインカレで優勝することが目標です。

門富

プレーヤーとして、まずはBチームで主力になり、その後、Aチームに上がって、試合に絡めるような選手になりたいです。

— 未来のチームメイトに一言

永田

周りでバスケだけでなく、スポーツ競技を大学で部活として続ける人が多い環境はなかなか無い中で、それを受け入れてくれるのが筑波の体育の環境です。みんながみんな、そんなちょっと周りとは違う、特殊なキャリアの中で頑張っていて、他の部活にも同じようにこの道を選んだ仲間がいる。同じ競技だけでなく、他の競技でも、トップで戦っている仲間と切磋琢磨できる場所が筑波大学だと思います。周りとは違う道になるかもしれないけど、選んで進めば、楽しいことしかない！そんな場所です。

門富

筑波大学は、バスケをするにも、勉強するにもとてもいい環境が整った大学です。ぜひ筑波に来て、一緒に筑波で日本一を目指しましょう！

